

通

信

(東京 中野 卓)

前略、年報編修委員会を七月四日に行いました。出席者、小池基之、有賀喜左衛門、森岡清美、中野卓（福武直は実習調査出張中のため不参）。その際、前号「村研通信」の大會予定記事の内容にもとづき、その具体化についての、以上四名の者が話し合いましたところをまとめて、提案とします。他の人々から御提案と合せて御検討下さいますよう。一、「戦後十年農村の変貌」という題目を掲げただけでは、やはりばくぜんとした感をまぬがれないから、もうすこし問題をしばらなければならないのではないか。報告者の氏名をも報告内容の概要をもなるべく早くきめて、それらを次号に発表してほしい。

討論の予定発言者少數名もあらかじめきておくことが必要ではないか（もちろんこれは討議の発言をその人々だけに限る意味ではなく動火線になつてもらうためである）「自由課題についても、その発表者を公募する記事と申込方法、期日等を次号「村落通信」に公示する。それと共に、多少個別に発表を勧誘し促進する必要もあるう。

二、大会開催地及び月日を次号でぜひ確定発表してほしい。このことは、自由発表の申込みにも関係があるうから。

三、開催地については、仙台、東京、大阪でこれまで行つて来たので、今年は愛知でという案は意義があると思う。しかし、今の村研の実情から見て、参会者の集りかたを考えれば、今秋は東京でやる方が人の集りの上であやうげがないのではないかとおもわれる。

四、共同課題の具体的な進めかたについて、次のようなやりかたを提案する。

(1) 「戦後十年農村の変貌」を、家族と部落構造との二つについてそれぞれの変遷に焦点をしぼる。

(2) 農村家族における戦後十年の変貌について、竹内利美、小山隆氏に報告を依頼。 (3) 部落構造における戦後十年の変貌について、後藤和夫、中村吉治氏に報告を依頼。

(4) 一貫して司会者一名をおき、補佐的司会者一名がこれを援助する。

以上は前記四名の一一致したところです。

(後略)